

競 技 注 意 事 項

1. 本競技会は 2024 年日本陸上競技連盟競技規則と本大会申し合わせ事項により行う。
- (1) 審判長および競技役員はいつでもシューズチェックをすることができ競技者はその指示に従わなければならない。明らかに規則・規程違反のシューズや疑わしいシューズはチェックや回収の対象になることがある。競技後にシューズの違反が認められた場合は、審判長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合がある。なお、本競技会では全フィールド種目では上記の要件・備考に記載されている「靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。」の規定は適用を除外する。

競技用靴・靴底の厚さに関する規定 (TR5.2) 【2024 年 10 月 31 日まで有効】

種 目	靴底の最大厚さ	要件・備考
フィールド種目(除:三段跳)	20mm	全投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目(800m 未満の種目、ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目(800m 以上の種目、障害物競走を含む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技と同じとする。
道路競技(競走・競歩)	40mm	

重要告知

競技用靴に関する規程 5.3 に従い、2024 年 11 月 1 日以降、靴底厚が下記の表に記載されている最大の厚さを超える既存靴は承認されなくなり、対象競技会では着用できなくなる。

【2024 年 11 月 1 日から有効】

種 目	ソールの最大厚さ	その他の要件 / 注意
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mm スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mm スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	全跳躍種目で、競技用靴に関する規程 10.3 および 10.4 に記載のとおり、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない(前足の中心は、靴の内部の長さの 75%にある靴の中心点。踵の中心は、靴の長さの 12%にある靴の中心点)。
道路競技(競走・競歩)	40mm	
クロスカントリー	20mm スパイクシューズ または 40mm ノンスパイクシューズ	競技者はスパイクシューズまたはノン・スパイクシューズ(ロードシューズなど)を履くことができる。スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは 20mm を超えてはならない。ノン・スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは 40mm を超えてはならない。
マウンテンレース トレイルレース	制限なし	

- (2) 招集所および競技エリア内でスマートフォン・携帯電話・タブレット等の通信機器や録画再生機器等を所持・使用することはでない。(TR.6.3.2)
- (3) 当該種目出場の競技者以外は、競技区域に立ち入ることができない。また、競技者は招集完了後競技終了まで、当該競技役員の許可なく競技区域から離脱してはならない。

2. 競技場の使用について

- (1) 競技者・付添等の関係者は競技場内の北・南にある出入口から入退場すること。陸上競技場から体育館へ通じる通路または体育館内フロア周辺への場所取りは禁止する。他の競技団体が使

用しているためトイレ・更衣以外は本部の許可がない限りはならないこと。

- (2) 横断幕、ノボリの設置はすべて禁止する。
- (3) テントの設置について
①正面の階段スタンドには設置しないこと（学校単位での場所取りは禁止）。
②テントは芝生スタンドに設置し、ロープ等が通路にかからないようにすること。
- (4) 使用した場所は各学校で責任を持って清掃しゴミ等は必ず持ち帰ること(帰路で捨てない)。
- (5) トラック、フィールド以外でのスパイクの着用は禁止する。
- (6) 更衣室は更衣のみの利用とし1人5分以内とする。また、清潔に使用し私物を置かないこと。

3. 練習について

- (1) 練習中の走る方向は競技会と同じ方向への一方通行とし、学校・個人のハードルやラダーなどは持ち込まないこと。危険防止のためゴムチューブ等を使ったスピード練習や日傘の使用は禁止とする。
- (2) 競技場内および公園内でのメディシンボール等の物を投げる練習は一切認めない。
- (3) 走高跳・走幅跳・投擲は準備が整った後、競技役員の手指示で練習してもよい。
- (4) 競技開始前のトラックでの練習は次のとおりとする。

競技開始前の競技場での練習について

競技会開始前の競技場（トラック）での練習は、周囲の動きに十分注意して行うこと。
ただし、練習可能時間内であっても競技会準備を優先とし、競技役員の手指示に従うこと。
競技場での練習は、8時30分までとする。また危険防止のため日傘の使用を禁止とする。

※いずれもジョグはレーン外、1・2レーンは長距離ペース走用

○ホームストレート

3～4レーン = コーナーからのスプリント練習

5～8レーン = 直線からのスプリント練習

○バックストレート 3～8レーン = リレー練習

※1→2 走 ・ 3→4 走は第2 コーナー、

※2→3 走は第3 コーナーで行うこと。

各校で使用したリレーのマーク（テープ）は必ず取り除くこと。

4. 招集について

※下記の時間帯に招集を完了できなかった場合は出場できない。

- (1) 招集場所は北役員室（100m スタート地点横）とする。
- (2) 招集は競技開始時刻前の下記時刻で行う。

招集時刻	トラック	棒高跳以外の跳躍	棒高跳	投てき
開始時刻	30 分前	50 分前	80 分前	60 分前
完了時刻	20 分前	40 分前	70 分前	50 分前

- (3) 競技者は招集開始時刻には招集場所にて上半身競技服装になり、競技者係よりアスリートビブス・腰ナンバーカードおよびスパイクピンの確認を受け現地に移動すること。
- (4) 招集の代理は認めない。ただし、招集時間帯に競技が行われる可能性がある場合には、**第1種目の招集開始時刻までに「多種目同時出場届」**を招集所へ提出することにより、第1種目は招集を受けなければならないが、提出をした第2種目は代理をたてる必要はない。なお、提出時にはユニフォーム・アスリートビブス・スパイクの確認を受けること。
- (5) リレー種目について
・オーダー用紙は**第1組の招集完了時刻の60分前**までに競技者係へ提出すること。
・リレーの一次招集は4人揃って受けること。他種目に出場していて、多種目同時出場届の提出が完了している場合には代理を立てる必要はない。
- (6) やむを得ず欠場する場合は、プログラムにある欠場届を競技者係へ提出すること。

5. 競技について

- (1) 競技結果は、場内アナウンスで発表された時点を正式発表とする。また大阪高体連 WEB ページに掲載するが、紙による掲示は行なわない。

- (2) 当該種目出場者以外は競技エリアに立ち入ることはできない。
- (3) スパイクのピンの本数は 11 本以内とし、9mm 以下のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投については 12mm 以下とする。また、先端近くで少なくとも長さの半分は 4mm 四方の定規に適合するように作られていなければならない。スパイクのピンのチェックは 1 次招集時に行う。
- (4) アスリートビブスは胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでよい。
- (5) トラック競技では、腰ナンバーカードをパンツの右側やや後方に付けること。4×400m の第 2・第 3 走者は、次走者の待機順を明確にするため、右側に腰ナンバーカードをつけること。なお、腰ナンバーカードは主催者が用意する。
- (6) トラック競技の短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュ後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (7) 競技エリア内に通信機器（スマートフォン・携帯電話等）やビデオ撮影機器（タブレット等）を持ち込んで서는ならない。また、競技エリア内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。また、フィールド競技中に競技者が、それ以前の試技映像を観るため録画再生機器などをスタンドからの手渡しや吊り下げる等により競技エリア内に持ち込むことは認めない。
- (8) トラック競技における連呼応援は、アナウンサーの通告やリレーの受け渡しの声が聞こえない場合もあるので、応援のマナーとして自粛するように。また、フィールド競技者の試技開始時の発声に対するに応援は、競技運営上影響する場面が多いので、これも自粛するように。なお、手拍子については決勝のトップ 8 以降のみ可とする（高さ種目においては概ね 8 名）。
- (9) フィールド種目について
- ① トップ 8 を行う。
 - ② 跳躍種目はセレクションラインを設ける（但し、走幅跳は、1 回は全員計測）。
走高跳【男子】 1m50 【女子】 1m25 走幅跳【男子】 5m50 【女子】 4m20
 - ③ 走幅跳は 1 組（メインスタンド前トラック側）、2 組（メインスタンド側）で行う。走高跳は、第二曲走路内側で行う。
 - ④ バーの上げ方は下記のとおりとする。※走高跳・棒高跳とも練習の高さは当日現地で決定する。

男 走高跳	現場判断	練	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	以降 3cm
女 走高跳	現場判断	練	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	以降 3cm	

⑤ 砲丸投を除き、投てき種目の計測は、ベスト記録のみを計測する。

- (10) フィールド競技の試技制限時間（単独種目）

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4 人以上※	1 分	1 分	1 分
2～3 人	1 分 30 秒	2 分	1 分
1 人	3 分	5 分	—
連続試技※※	2 分	3 分	2 分

※ 4 人以上または各競技者の最初の競技は 1 分とする。

※※ 残っている競技者が 2 人以上の時に適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

6. やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。やりの検定は、競技開始時刻の 90 分前より 30 分間、用器具庫（北役員室横）で行う。

7. 免責事項について

- (1) 競技中に生じた事故については、応急処置の他一切の責任を負わない。
- (2) 競技会に関わる全ての人への感染に対するいかなる責任も負わない。
- (3) Jアラート警報が発令された場合や雷時には、競技を中断・中止する場合がある。その場合は参加料の返金はしない。

8. その他

- (1) 顧問の受付がない学校の競技者の出場は認めない。
- (2) プログラムは、配布しないので各校で印刷準備すること。
- (3) 競技日程はプログラム記載のものを確認すること。HPにUPされているスタートリストの競技開始時間は参考なので、必ず競技日程を確認すること。
- (4) 補助員は各校1~2名出ること。補助員分担は別頁に記載してある。
- (5) 盗難が発生しているため貴重品等の持ち物の管理は各校・各自で注意すること。

個人情報の取り扱いについて

プログラム記載の個人情報（名前、学校名など）および大会結果は、新聞および大阪陸上競技協会・大阪高体連陸上競技専門部のWEBサイト等に記載されますが、本大会関係以外には一切使用しません。また、本大会が認めた報道機関が撮影した映像が中継・録画放送されることがあります。